Introduction of the Asahi Kasei Group

AsahiKASEI

社会課題の解決に向け、我々は突き進む

旭化成は、「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献する」というグループミッションのもと、さまざまな社会課題に正面から対峙し、事業ポートフォリオを柔軟に変革させながら課題解決に挑み続けてきました。その結果、日本の食文化を支えるサランラップ®、ロングライフ住宅のヘーベルハウス™、モバイル端末や電気自動車に搭載され今や生活に不可欠なリチウムイオン電池の基本構造の発明など、多くのイノベーションが生まれました。

しかしながら世界には、カーボンニュートラルや健康長寿社会の実現など、いまだ課題が山積しています。当社は100年を超える歴史の中で培ってきた技術や知的財産、人財といった多様な無形資産を最大限に生かし、社会が待ち望むさらなるイノベーションの期待に応えるとともに、より良い明日のために、力強く突き進み続けます。

代表取締役社長

工藤幸四郎

Creating for Tomorrow

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、

より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、

次の時代へ大胆に応えていくためにー。

私たちは、昨日まで世界になかったものを創造し続けます。

会社概要

商号	旭化成株式会社
創業	1922年5月25日
本社	東京都千代田区
資本金	103,389百万円
従業員数	50,352名（連結）

※2025年3月末時点

旭化成グループ体制と事業概要

旭化成株式会社［持株機能］

MATERIAL
マテリアル領域

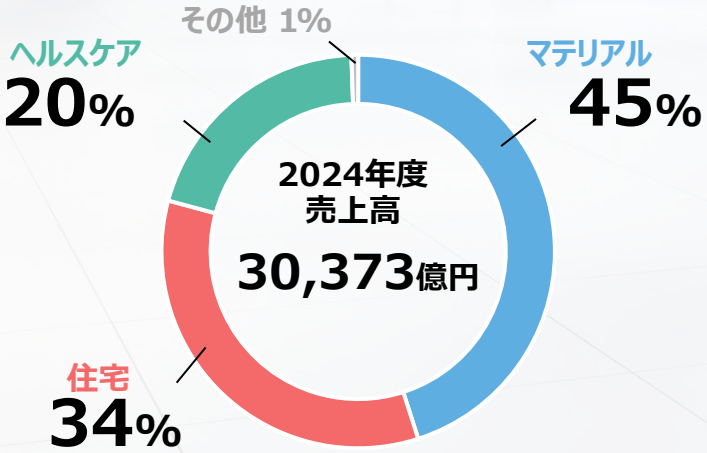
- 旭化成㈱［事業機能］
  - 旭化成エレクトロニクス㈱
    - エレクトロニクス事業
    - カーインテリア事業
    - エナジー＆インフラ事業
    - コンフォートライフ事業
    - ケミカル事業

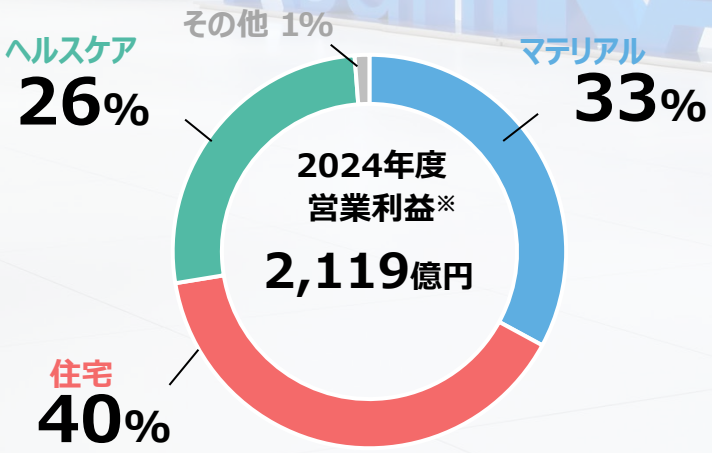
HOMES
住宅領域

- 旭化成ホームズ㈱
  - 住宅事業
- 旭化成建材㈱
  - 建材事業

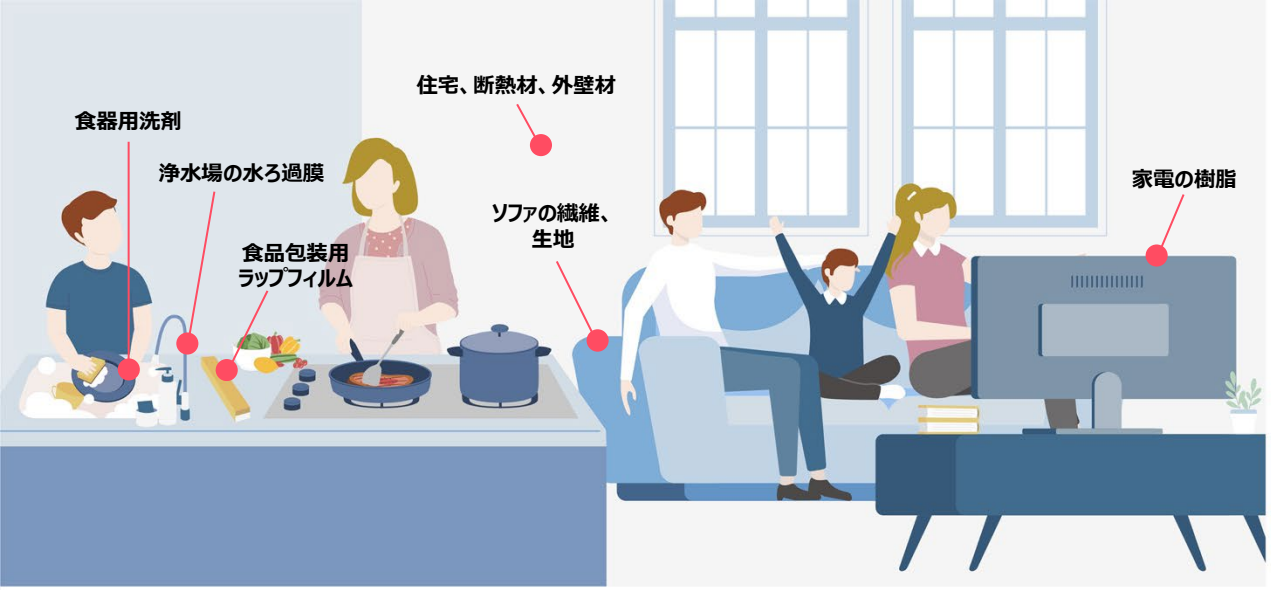
HEALTH CARE
ヘルスケア領域

- 旭化成ファーマ㈱・ベロキシス社
  - 医薬事業
- 旭化成ライフサイエンス㈱
  - ライフサイエンス事業
- ゾール・メディカル社
  - クリティカルケア事業

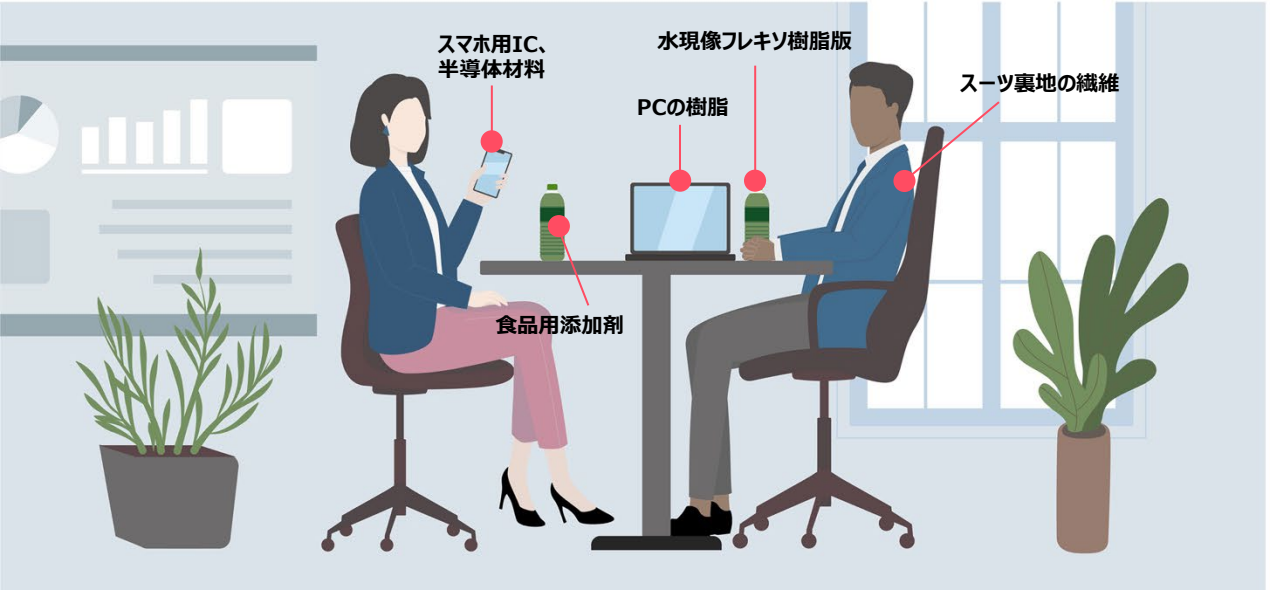


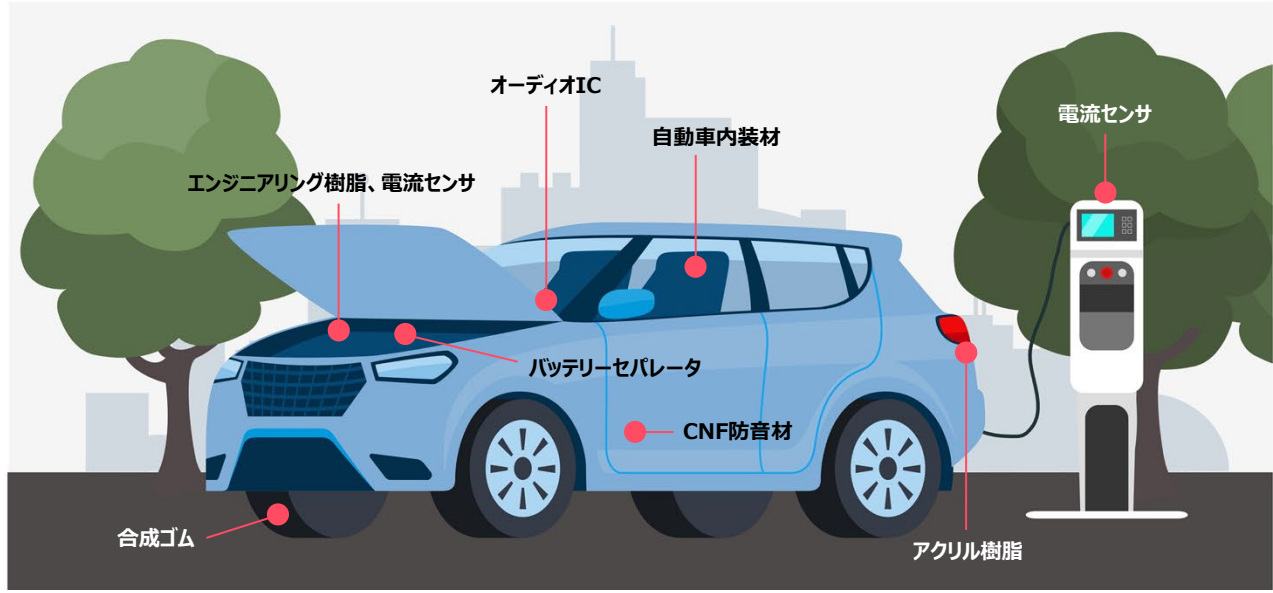


※「消去又は全社」を除く事業セグメントで比率を記載



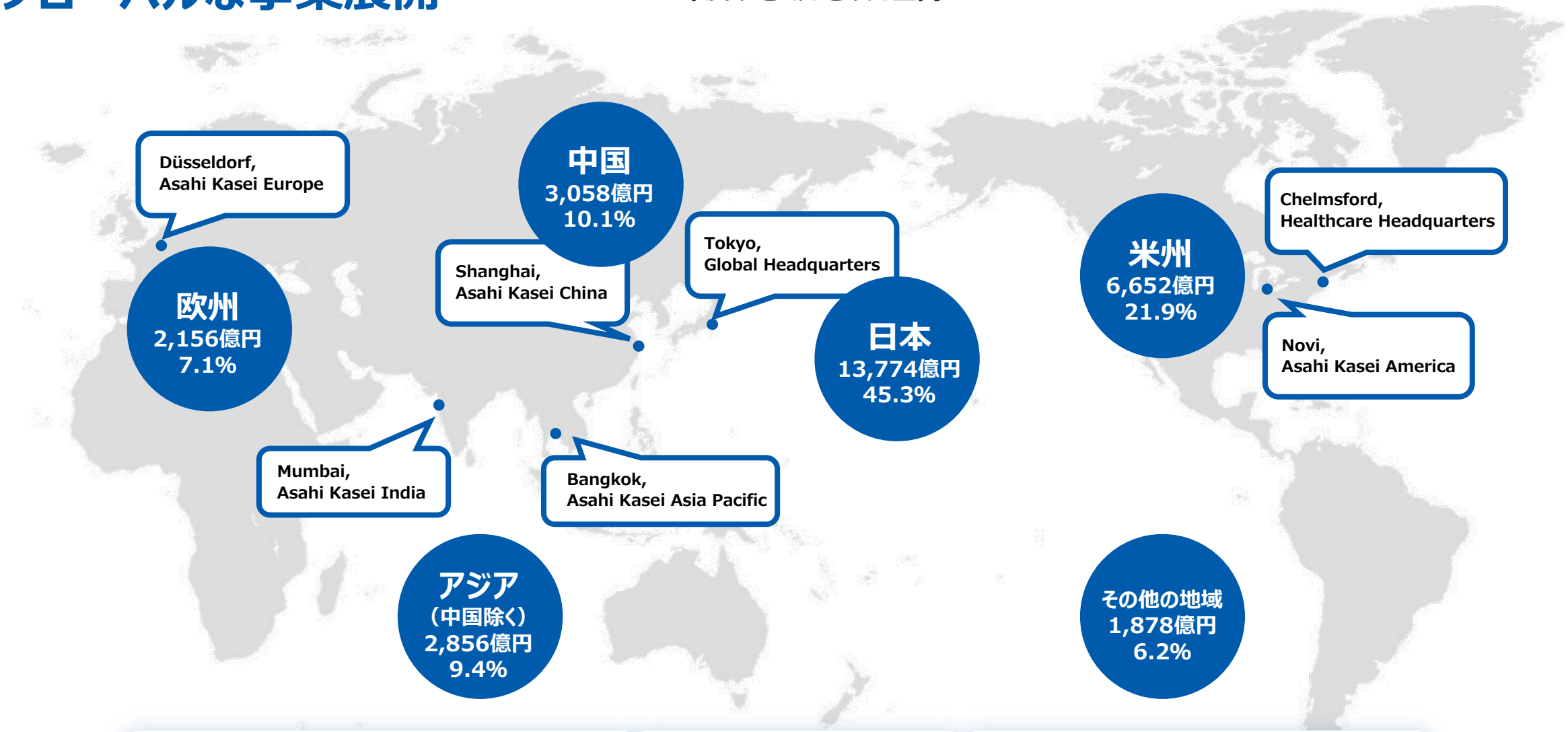
"いのち"と"くらし"を支える旭化成グループの製品





グローバルな事業展開

2024年度の地域ごとの売上高



グローバル展開国	連結子会社数	海外売上高比率
20カ国・地域以上	309社	54.7%

※比率はグループ全体の売上高における構成比

事業を変革し、社会課題の解決に貢献

マテリアル　住宅　ヘルスケア　その他

年代	社会のニーズ	主な事業展開と売上高構成	●新規参入・M&A ○撤退・縮小・譲渡
1922年～	農業や重化学工業の発展	**創業、日本初の合成アンモニアの製造** 5,600万円 ※1940年度	●アンモニア ●化学繊維 ●化学肥料 ●合成繊維 ●樹脂 ●食品
1960年～	戦後復興後の生活物資の充足	**石油化学、住宅、ヘルスケア、エレクトロニクス分野へ展開** 449億円 ※1960年度	●消費財 ●石化事業 ●合成ゴム ●戸建住宅 ●人工腎臓 ●建材
1980年～	住生活向上、医療発展、社会資本整備	**LSIやリチウムイオン電池など情報機器のキーパーツを供給** 8,001億円 ※1980年度	●電子部品 ●LIB用セパレータ ●集合住宅 ●断熱材 ●医薬品 ●ウイルス除去フィルター ○食品
2000年～	効率化、利便性の向上（携帯電話、PC、AV機器の普及）	**M&Aによるグローバル化の加速、ヘルスケア事業の拡大** 12,694億円 ※2000年度	●電子コンパス ●救命救急医療機器（クリティカルケア） ○石化事業再編 ○レーヨン、アクリル繊維、ポリエステル ○酒類
2020年～	環境課題解決、健康長寿社会の実現	**気候変動やアンメットメディカルニーズなど世界的な課題に解決に資する事業・技術を展開し、持続可能な社会の実現を目指す** 30,373億円 ※2024年度	●水素製造システム（実証実験中） ●睡眠時無呼吸症診断・治療 ●CDMO（医薬品受諾製造） ●海外住宅 ○フォトマスク用ペリクル

コア技術とともに未知の領域に挑み、多角的に事業を展開

1922年
当社の創業
旭絹織株式会社 設立

1931年
当社の設立
延岡アンモニア絹絲株式会社 設立
アンモニア、硝酸等化成品を製造販売

1935年
食品事業へ進出
グルタミン酸ソーダを生産開始

1957年
合成樹脂事業へ進出
旭ダウ株式会社がポリスチレンを生産開始

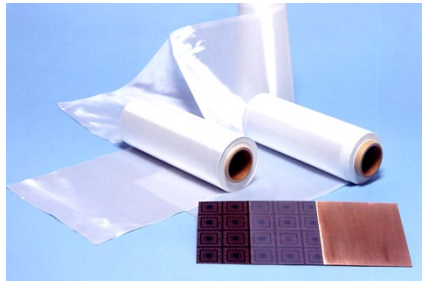
1959年
合成繊維事業へ本格展開
アクリル繊維「カシミロン™」を本格生産開始

1960年
樹脂製品事業へ進出
「サランラップ® 」を生産開始

1967年
建材事業へ本格進出
軽量気泡コンクリート「ヘーベル™」を生産開始

1968年
石油化学事業へ本格進出
山陽石油化学株式会社 設立

1971年
エレクトロニクス事業へ進出
旭シュエーベル株式会社 設立



1972年
住宅事業へ本格進出
戸建住宅「ヘーベルハウス™」の
本格販売を開始

創業 → **総合化学メーカーとしての成長** → **多角化の推進**

時代を先取りし、グローバル経営を加速

1974年
医療事業へ進出
人工腎臓を生産開始

1980年
宮崎電子株式会社（現旭化成電子株式会社）　設立
ホール素子を生産開始

1982年
合成樹脂事業を強化
旭ダウ株式会社を合併

2012年
クリティカルケア事業へ進出
米国ZOLL Medical社を買収

2020年
医薬事業を強化
米国Veloxis Pharmaceuticals社を買収

2022年
創業100周年

多角化の推進 → **グローバル化の進展** → **新たな挑戦**

1978年
医薬事業へ本格参入
経口制ガン剤「サンフラール™」を販売開始

1983年
LSI事業へ本格展開
旭マイクロシステム株式会社 発足

2017年
海外住宅事業へ進出
豪州McDonald Jones社と資本提携
※2019年米国Synergos社 設立
※2021年豪州NEX Building Group 立ち上げ

NEX Building Group

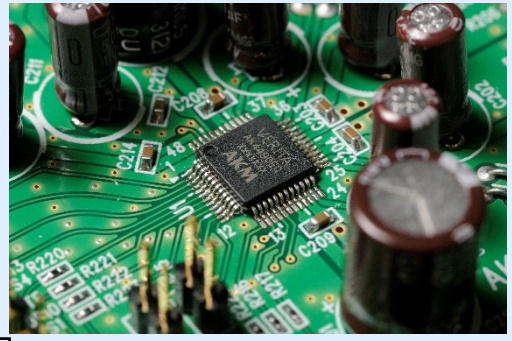
synergos

2022年
CDMO事業に進出
米国Bionova Scientific社を買収

マテリアル領域

エレクトロニクス事業

事業会社　旭化成 / 旭化成エレクトロニクス



取扱製品　エレクトロニクス部品、電子材料、LEDなど

カーインテリア事業

事業会社　旭化成

取扱製品　人工皮革など

エナジー＆インフラ事業

事業会社　旭化成

取扱製品　水処理膜、イオン交換膜食塩電解プロセス、セパレータなど

コンフォートライフ事業

事業会社　旭化成

取扱製品　キッチン・ハウスホールド用品、感光材、繊維添加剤、化薬など

ケミカル事業（パフォーマンスケミカル・エッセンシャルケミカル）

事業会社　旭化成

取扱製品　基礎化学品、モノマー、ポリマー、合成ゴム、エラストマー
高機能ポリマー、発泡樹脂など

住宅領域

住宅事業

事業会社　旭化成ホームズ

取扱製品　戸建住宅・集合住宅、マンション開発・宅地開発など

建材事業

事業会社　旭化成建材

取扱製品　木造建築向け製品（戸建て住宅、共同住宅など）、
鉄骨造・RC造・SRC造建築向け製品
（ビル・マンション・店舗・工場など）、
非建築分野・産業資材用途

ヘルスケア領域

医薬事業

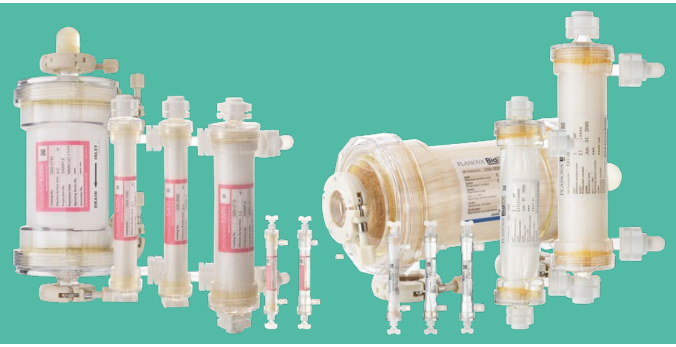
事業会社　旭化成ファーマ / ベロキシス

取扱製品　医療用医薬品、診断薬など

ライフサイエンス事業

事業会社　旭化成ライフサイエンス

取扱製品　製薬プロセス分野など



クリティカルケア事業

事業会社　ゾール・メディカル

取扱製品　除細動器、人工呼吸器、在宅用睡眠時無呼吸症診断など

モノ売りからコト売りまで、コア技術を活かした新事業創出へ

コア技術

- 化合物半導体
- 解析・CS
- バイオ
- ポリマー
- 電気化学
- 膜・セパレーション
- 繊維
- 触媒
- 無機合成
- 化学プロセス

オープンイノベーション

アカデミア　スタートアップ　JV　CVC

共創による開発／社会実装の加速

イノベーション

DX／知財のフル活用

DX：データ　ネットワーク　人財

知財：特許　ノウハウ

無形資産の価値最大化

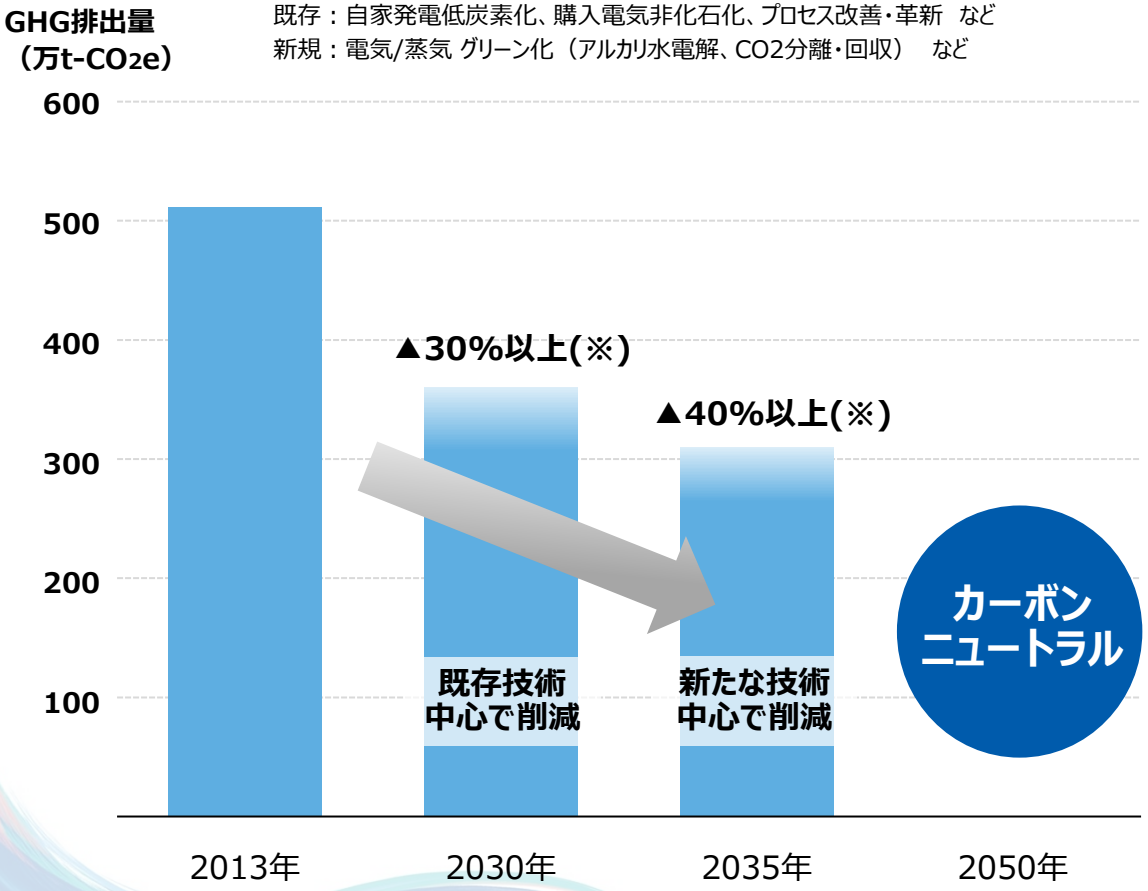
提供：モノ　サービス　ライセンス　ソフトウェア　プラットフォーム　etc…

グリーントランスフォーメーション（GX）

2050年のカーボンニュートラルを目指しGHGを削減

当社のGHG削減

既存：自家発電低炭素化、購入電気非化石化、プロセス改善・革新　など
新規：電気/蒸気 グリーン化（アルカリ水電解、CO2分離・回収）　など

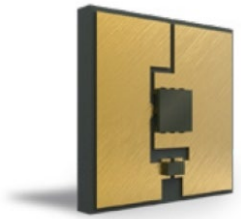


(※)2013年度比

社会のGHG削減

環境貢献製品（以下、主要製品）

リチウムイオン電池セパレータ


水殺菌用UVC-LED

イオン交換膜食塩電解プロセス

断熱材 ネオマフォーム™

ヘーベルハウス™

印刷版 感光性樹脂 AWP™

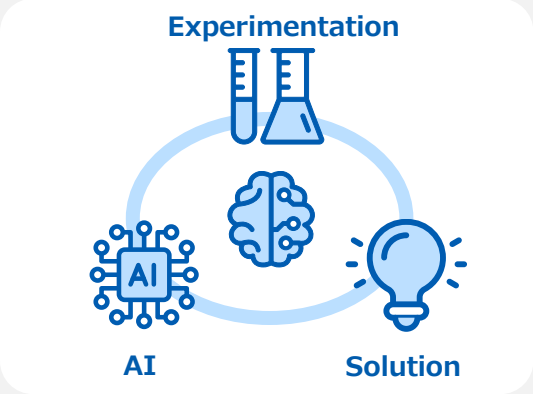
CO2を原料としたポリカーボネート(左)・ジメチルカーボネート(右)の製造プロセス

人工皮革 Dinamica®

デジタルトランスフォーメーション（DX）

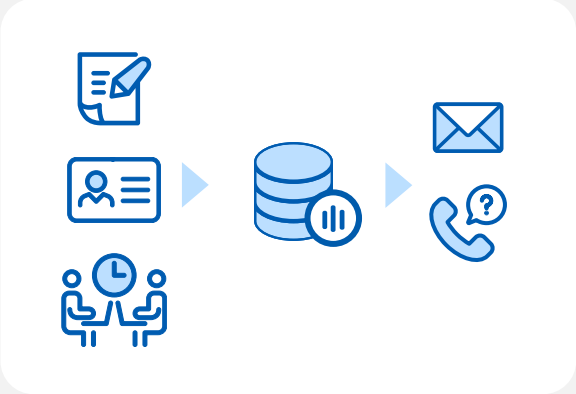
ビジネスモデル変革、価値創造をリードするデジタル技術活用を推進

マテリアルズ・インフォマティクス（MI）



スマートファクトリー

マーケティングオートメーション



IPランドスケープ

旭化成の主なDXの取り組み

DX事例

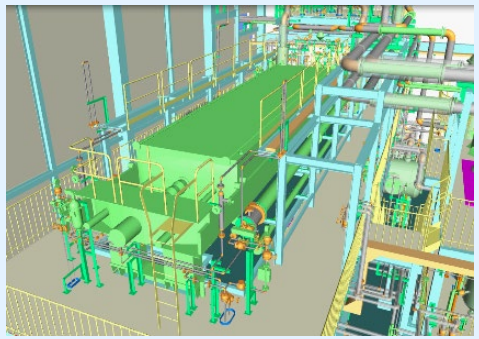
ウイルス除去フィルター「プラノバ™」の高性能化

実験だけでは見つけられなかった製造プロセス条件の組み合わせを、MIを適用して発見。優れたろ過流量を実現した競争力の高い新製品を開発。

DX事例

デジタルツインによる工場の変革

３Dモデルを活用し、運転の最適化、保守保全の高度化と遠隔管理、オペレーター作業の負荷低減を実現することを目指す。



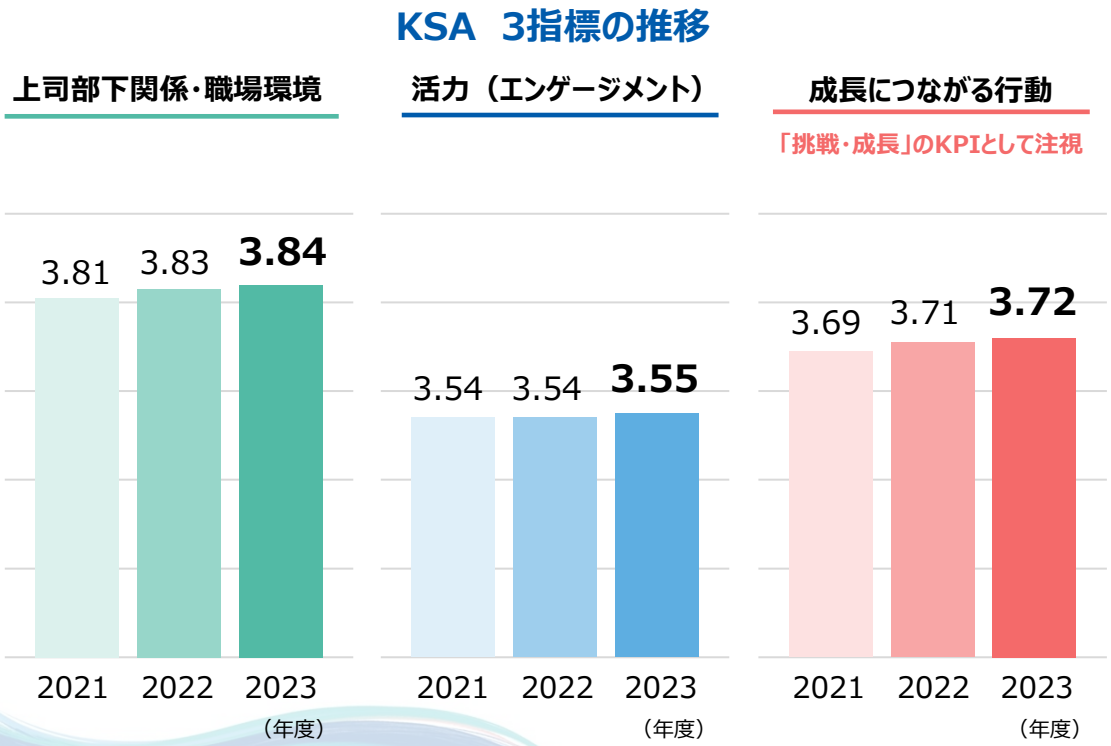
人財のトランスフォーメーション（PX）

多様な個の"終身成長"と"共創力"で未来を切り拓く

KSA（活力と成長のアセスメント）

個人と組織の状態を可視化することで、従業員のワークエンゲージメントや挑戦・成長につながる行動を促し、PDCAを効果的に回す。

KSA　3指標の推移

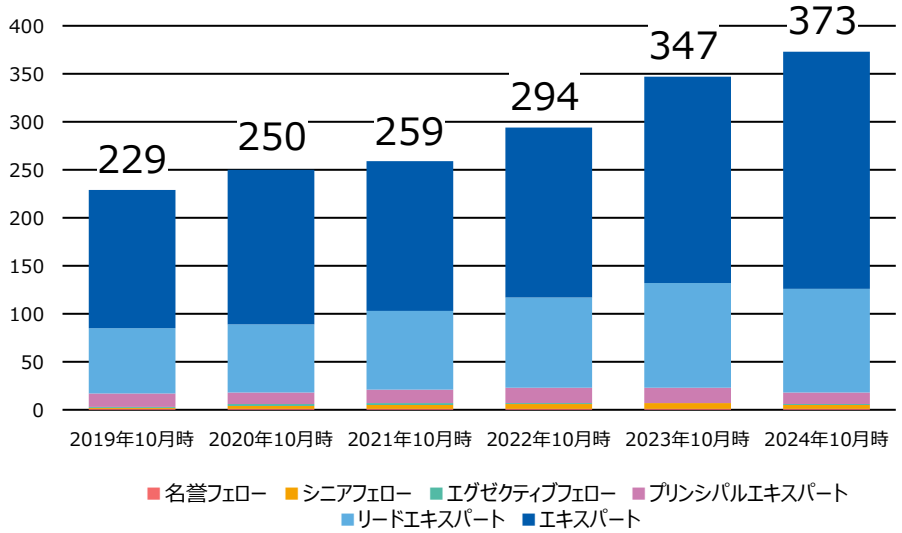


高度専門職制度

新事業創出、事業強化へ積極的に関与し、貢献することが期待できる人財を「高度専門職」として任命、育成、処遇することで、社内外に通用する専門性の高い人財の層を厚くする。また多様な"個"の共創でイノベーションを起こす。

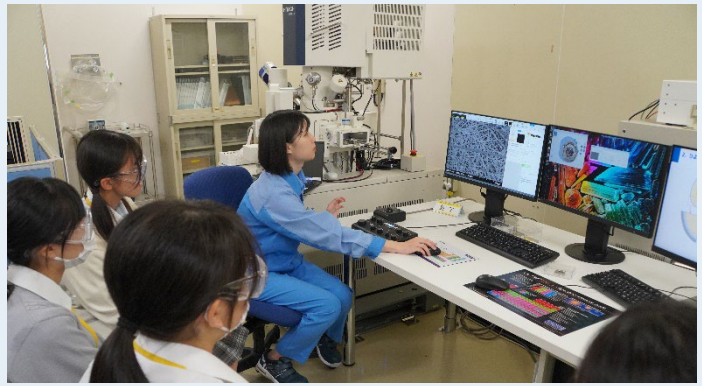
名誉フェロー 吉野 彰

リチウムイオン電池の基本構造を発明した旭化成の吉野 彰は、
高度専門職の最高位である名誉フェローです。



社会貢献活動

次世代育成



TOPICS 1

若い世代の理工系分野への興味育成

研究・技術職の仕事を知るイベントツアーを開催し、若い世代の理工系分野への興味育成を行っています。

環境との共生

TOPICS 2

植林活動と森づくり

植林・育林活動などの森づくりを通じ、洪水などの自然災害防止や多様な生物の保全を行っています。地域との交流の場としても貢献しています。

文化・芸術・スポーツ振興

TOPICS 3

企業スポーツを通じての貢献

旭化成の陸上部・柔道部は、五輪代表選手を多数輩出しているほか、スポーツを通じた社会貢献活動も積極的に行っています。

AsahiKASEI

旭化成株式会社

本社　〒100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号
日比谷三井タワー

発行　2025年4月